

## 平成26年2月定例会 建設常任委員会の主な質疑・質問等

平成26年2月24日

**菊池** 過去3年間に引き続き今年も大雪となっているが、道路除雪の執行状況はどうか。

**道路保全課長** 除雪費の25年度当初予算は43億7,800万円で、昨年度と比較し6億円の増額となっている。1月末現在の執行状況は33億8,600万円で、執行率は77.3%となっている。

**菊池** 2月に短期間に集中したゲリラ的な降雪があり、物流等にも影響が出た。今後も山間部の除雪や凍結防止対策にしっかり取り組んでほしい。

**菊池** 県営太陽光発電所の発電量への降雪による影響はどうか。

**公営事業課長** これまでの1日当たりの発電電力量が最大で5,600kWhだった。現地での年間の発電設備利用率のシミュレーションでは、2月は10.3%だったのに対し、中旬までの実績が9.2%であり、ほぼ想定どおりの稼働状況となっている。

**菊池** 馬見ヶ崎橋桁製作架設工事は、県内企業では対応できないものなのか。

**都市計画課長** 今回の発注にあたっては、県内企業も参加できるように共同企業体方式とし、県内企業を含む共同企業体1社の応募もあったが、県外企業が落札した結果となった。

**菊池** 県内企業育成のため、今後も県内企業が参加できる仕組みづくりをお願いしたい。馬見ヶ崎橋供用までのスケジュールはどうか。

**都市計画課長** 桁製作架設工が平成27 年前半、28 年に床版工、舗装工、高欄工等を行い、28 年度に完成予定である。

平成 26 年 3 月 12 日

**菊池** 村山広域水道の浄水能力強化について、進捗状況はどうか。

**公営事業課長** 薬品注入能力の強化として、凝集剤と苛性ソーダの注入機の増設工事を行っており、予定どおり 3 月中に完成の見込みである。

**菊池** 新たな中小水力発電の事業化を進めている 5 地点の選定理由と取組みはどうか。

**企業局参事** 銅山川地点(大蔵村)と黒鴨地点(白鷹町)は、可能性調査の概略設計の結果、一定の採算性が見込まれるため、今年度から基本設計と地形測量・地質調査等を行っており、平成26 年度も引き続き基本設計と測量調査等を実施する。明沢川地点(小国町)は、経済産業省が可能性調査を実施したが、今年度、企業局が基本設計を開始し、26 年度は測量調査等を実施する。熊野地点(寒河江市)と宝谷地点(鶴岡市)は、可能性を検討するため流量調査を行う。これらの基本設計や測量調査等を踏まえ、更に採算性を検討し、順次、次のステップである詳細設計を実施していく。

**菊池** 本県の急峻な地形は、水力発電に適していると考えますがどうか。

**企業局参事** 企業局は、これまで60年にわたって水力発電事業を展開し、現在13発電所で合計88,300kwの出力であるが、引き続き中小水力発電を事業の柱と位置づけ、山形県エネルギー戦略に掲げた目標達成のため、出力を10万kw以上に増やすことを目指し取り組んでいく。

**菊池** 太陽光発電所の発電状況を公表しているが、水力発電も含めて発電状況の可視化を進めてはどうか。

**公営事業課長** 太陽光発電の発電状況は、先導的な役割として事業者の参考になるように公表している。水力発電についても、流量や天候に左右されるが、県民に分かりやすい情報を開示するように努めていく。

**菊池** 庄内空港でのオーバーランについて、1年経過して調査結果は公表されたのか。

**空港港湾課長** 平成24年12月にオーバーランが発生した際には、1年程度で原因調査の結果が出るという話があったが、現時点ではまだ公表されておらず、運輸安全委員会で調査しているところである。

**菊池** 県土整備部における橋梁等の長寿命化対策の予算の推移と進捗状況はどうか。

**管理課長** 全国に先駆けて、平成16年度から県管理の橋梁の長寿命化対策に着

手しており、それ以降、道路の舗装、トンネル、河川の水門や樋門、砂防えん堤、岸壁などを対象として順次対策を実施している。

予算の推移としては、当初予算ベースで、長寿命化対策を開始した16年度は約8億4千万円であったが、26年度当初予算は約38億4千万円となっている。加えて、国の経済対策等がある年度は、補正予算も有効に活用しながら対策を進めており、11年間の累計で300億円を超える対策を講じてきた。

なお、政府では、昨年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を決定し、全ての公共施設管理者に対して個別施設ごとの長寿命化計画の策定を求めていることから、引き続き、予防保全型の維持管理に努めていく。

進捗状況として、橋梁に関しては、16年度から取り組んできたことにより効果が現れてきており、26年度当初予算は25年度より約13億円減少している。他の施設については、22年頃から取り組み始めたものが多いことから、現段階では効果が現れていない。

**菊池** 市町村の長寿命化計画の策定状況はどうか。

**道路保全課長** 市町村では平成21年度から橋梁点検を進めており、25年度末までに全35市町村で点検を終了し、長寿命化計画を策定する予定となっている。早期に取り組み始めたところでは具体的な対策に入っているが、全体としての長寿命化対策の進捗率は24年度末で3.7%となっており、今後本格的に対策が進められていく状況である。

**菊池** 平成25年12月に、防災・減災に資する国土強靱化基本法が成立した。

26年5月には国による国土強靱化基本計画が策定される予定であり、加えて、都道府県及び市町村に対しては、地域計画策定への支援があると聞いているが、

今後の県としての取組方針はどうか。

**企画主幹** 平成26年5月頃に策定される国の国土強靱化基本計画と併せて、地域計画策定のためガイドラインが示されると聞いており、今後国の動向を注視しながら対応を検討していきたい。

**菊池** 東北中央自動車道の平成30年度開通に向け、用地取得状況はどうか。

**用地課長** 平成26年2月末で、全体取得面積の89.9%となっている。26年4月からの用地取得はNEXCOが行うことになるが、スムーズに用地取得できるよう、現在、県とNEXCOが合同で用地交渉を行なっている。

**菊池** 馬見ヶ崎橋桁製作架設工事の積算誤りに気づいたきっかけは何か。入札制度の問題ではなく、ヒューマンエラーということか。

**都市計画課長** 契約後に積算内訳書を公表するが、入札参加業者から積算内容について問い合わせがあり、再チェックしたところで誤りが見つかった。データ入力の際のミスであり、ヒューマンエラーである。今後は複数の目によるチェックを行い、再発防止の体制をつくっていきたい。

平成26年3月17日

**菊池** 繰越明許費の規模は、昨年度と比較してどうか。

**管理課長** 今年度は、すでに12月定例会で220億円余りの繰越の承認をいただいているため、今回追加提案した繰越事業費は31億904万8千円であり、昨年度と比較して、132億4,264万7千円の減少となっている。

今年度は国の緊急経済対策補正予算等により、平成24年度から25年度へ繰り越した事業が多く生じたこと、また、昨年7月の豪雨災害関係事業費が多額となったため12月定例会で多額の繰越明許費を承認していただいていることにより、今回追加提案した繰越事業費が非常に少なくなっている。

**菊池** 入札不調により繰越すものもあるが、今後の不調対策の取組みはどうか。

**建設企画課長** 入札不調対策については、現在も様々な取組みを行っているが、繰越案件の不調対策についても、これまでの取組みを引き続き実施していく。まずは、工事量の平準化である。12月定例会ですでに繰越の承認をいただいた案件については、年度初めからの早期発注に努めるとともに、2月定例会で承認をいただくものについても、年度前半での発注に努め、年間を通した工事量を平準化していく。

また、4月の発注見通しの公表では、工事の概算額も含めて公表することとし、受注者が自社の経営方針に合致した工事の受注計画を立てやすいようにしていく。平成26年度の労務単価については、2箇月前倒して2月発注工事から適用しているが、資材単価についても、4月の改定期において、実勢価格が上昇している資材の単価を引き上げていく。

さらに、技術者配置要件の緩和について、兼務できる工事の範囲を5kmから10kmに拡大したが、より技術者の有効活用を図っていく。

**菊池** 再度、馬見ヶ崎橋桁製作架設工事の債務負担行為を設定する原因となった、入札予定価格の積算誤りの具体的な内容はどうか。

**都市計画課長** 材料を購入し、工場内で加工する際の諸経費である工場管理費の積算において、本来対象額に含めない材料を対象としたものである。

**菊池** 今後の積算ミス再発防止のためどのような対応を考えているか。

**建設企画課長** 複数によるチェック体制について改めて周知徹底を図るとともに、積算システムにおける積算額と業者の積算額に乖離が生じた場合に、誤りがないかどうかチェックするという職員の意識の徹底と、チェック項目の見直しによるチェックリストの充実によって対応したいと考えている。

**菊池** これまでの実績についての検証は行っているのか。

**建設企画課長** 今年度発注した工事の中で今回の事案と同様のものは2件あり、今回のミスを受けて積算内容をチェックした結果、誤りがなかったことを確認した。

**菊池** 業者の損害についてはどう対応するのか。

**都市計画課長** これからの協議となる。

**菊池** 営業費用などの損害も考えられる。対等な立場で再入札するためにも適切な賠償を行ってほしい。また、今後、同じようなことが再発しないようにするためにどのようにしていくのか。

**県土整備部長** これまでも、発注事務のミス防止に取り組んできたところであり、今回の事態を重く受け止めている。

今後、事務処理のチェックの仕方について改善を図り、再発防止に努めていく。チェックには、本庁、総合支庁の多数の職員が関わっているので、緊張感を持ちながら事務処理を行うよう、会議等を開催して意思疎通を図っていく。

**菊池** 地元への対応はどうするのか。

**都市計画課長** 地元でも大変期待されている工事であり、平成28年内の供用目標を果たすよう努め、今後の見通しについて地元説明会で説明していく。